

「主な取組」検証票

施策展開	3-(4)-ア	臨空・臨港型産業の集積による国際物流拠点の形成	施策	① 国際物流機能の強化
			施策の小項目名	○港湾機能の強化
主な取組	那覇港物流機能強化事業			
対応する主な課題	①アジア地域の経済成長に伴い、アジア域内外の国際物流がますます活発化する中、上海、香港、シンガポール等では、戦略的なインフラ整備等により、我が国や海外の企業の生産・物流拠点の立地等による産業の集積が進展し、国際的な物流拠点として確固たる地位を築いている。沖縄では、平成21年に那覇空港の国際航空物流ハブ事業が開始され、東アジアの中心に位置する沖縄の地理的特性は物流面で優位性を発揮するよう			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
港湾施設の狭あい化による利用効率の低下、船舶大型化等に対応するため、那覇港において各ふ頭の機能再編の実施、岸壁等の港湾施設の強化・拡充を図り、効率的で安全な港の整備を促進する。		H29	H30	R元	R2	R3
実施主体	国、那覇港管理組合					
担当部課【連絡先】	土木建設部港湾課 【098-866-2395】					
		機能再編、貨物増大促進事業及び岸壁等の整備				

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位：千円)

予算事業名		R3年度					R4年度		令和3年度活動内容と令和4年度活動計画	
主な財源	実施方法	H29年度決算額	H30年度決算額	R元年度決算額	R2年度決算額	R3年度決算見込額	当初予算額	主な財源		
一括交付金(ソフト)	委託	28,480	51,917	0	14,459	11,887	19,740	一括交付金(ソフト)	OR3年度： 那覇港において既存施設延命化事業及び輸出貨物増大促進事業を実施した。 OR4年度： 引き続き、那覇港において既存施設延命化事業及び輸出貨物増大促進事業を実施する。	
予算事業名										
主な財源	実施方法	H29年度決算額	H30年度決算額	R元年度決算額	R2年度決算額	R3年度決算見込額	当初予算額	主な財源	令和3年度活動内容と令和4年度活動計画	
									OR3年度： OR4年度：	

活動指標名	機能再編、貨物増大促進事業、岸壁・物揚場等の整備				R3年度			R3年度決算見込額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合A/B	11,887	順調	既存施設延命化事業として、防舷材取替工事やエプロン改修工事等を実施した。また、荷主を対象とした実証実験を実施し、物流コスト低減や輸送システムの改善等の検証を行った。さらに、航路再編を行った外航船社への補助事業を実施した。
						既存施設延命化等	既存施設延命化等			
活動指標名					R3年度					進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合A/B			那覇ふ頭地区において防食工防舷材取替工事を行い、岸壁の安全性が確保された。また、令和元年度に新規開設された外航航路は令和3年度中も継続運航しており、取組は順調である
(2) これまでの改善案の反映状況										
令和3年度の取組改善案						反映状況				
<ul style="list-style-type: none"> 港湾関係者や関係機関と密に調整し、港湾施設の利便性向上や効率的で安全な施設配置の検討を行っていく。 既存施設の状態を適切に把握し、効率的な維持管理に努める。 那覇港管理組合、那覇国際コンテナターミナル(株)及び那覇港総合物流センター運営企業による会議実施体制を検討し、国際コンテナターミナルの改善・高度化に向けた検討や、新型コロナウイルス感染拡大の影響下における取扱貨物の維持・増加に向けた取組を検討する。 						<ul style="list-style-type: none"> 港湾施設利用における現状と課題の整理を行い、利用者のニーズや関心事を把握するため、港湾利用者のヒアリングを実施した。 施設の日常点検を行い、既存施設の状態を把握した。 那覇港管理組合と那覇国際コンテナターミナル(株)との連絡会議において、貨物増加等に向けた各種取組のための会議を実施した。また、那覇港の取扱貨物の維持・増加に向けて、船社等へのポートセールスを実施した。 				

様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)	
○内部要因 ・那覇港では、港湾施設の狭隘化による利用効率の低下、船舶の大型化や貨物船及び旅客船・フェリーの混在が課題となっている。 ・老朽化した港湾施設が多く存在しているため、効率的かつ効果的な維持管理を行う必要がある。 ・更なる国際航路の拡充を図るため、国際コンテナターミナルの改善・高度化や船社ニーズに対応したインセンティブの検討が求められている。	○外部環境の変化 ・東京、横浜、大阪、神戸の各港において周辺道路の混雑やドライバーの人手不足などが課題となっており、輸送手段や発着港の転換を図るモーダルシフトなどの動きがある。 ・新型コロナウイルスの感染拡大による物流全体の需要低下や海上物流マーケットの高騰などにより、取扱貨物量の減少の可能性がある。
(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)	
・荷さばき地や上屋の移転等を含め、新港ふ頭において、効率性及び利便性の高い港湾施設の再編・適正配置を行う必要がある。 ・安全かつ効率的な港湾施設利用のため、既存施設の延命化が必要である。 ・那覇港管理組合、那覇国際コンテナターミナル株式会社及び関係機関間で取扱貨物量に対する課題を共有し、国際コンテナターミナルの改善・高度化や船社ニーズに対応した効果的なインセンティブを検討することで、外部環境の変化の中においても、取扱貨物の維持・増加に努める。	

4 取組の改善案 (Action)

・港湾関係者や関係機関と密に調整し、港湾施設の利便性向上や効率的で安全な施設配置の検討を行っていく。 ・既存施設の状態を適切に把握し、効率的な維持管理に努める。 ・那覇港管理組合は、那覇国際コンテナターミナル(株)及び那覇港総合物流センター運営企業間による会議実施体制を検討し、国際コンテナターミナルの改善・高度化に向けた検討や、新型コロナウイルス感染拡大の影響等における取扱貨物の維持・増加に向けた取組を検討する。
--

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	3-(4)-ア	臨空・臨港型産業の集積による国際物流拠点の形成	施策	① 国際物流機能の強化
			施策の小項目名	○港湾機能の強化
主な取組	那覇港産業推進・防災事業			
対応する主な課題	①アジア地域の経済成長に伴い、アジア域内外の国際物流がますます活発化する中、上海、香港、シンガポール等では、戦略的なインフラ整備等により、我が国や海外の企業の生産・物流拠点の立地等による産業の集積が進展し、国際的な物流拠点として確固たる地位を築いている。沖縄では、平成21年に那覇空港の国際航空物流ハブ事業が開始され、東アジアの中心に位置する沖縄の地理的特性は物流面で優位性を発揮するよう			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
生活基盤としての那覇港の機能維持・強化のために、旅客待合所、上屋等の耐震化や長寿命化対策等を推進する。		H29	H30	R元	R2	R3
			新港ふ頭4号上屋延命化(完了)	新港ふ頭5号上屋延命化(完了)		那覇ふ頭1、2号上屋建替(完了)
実施主体	那覇港管理組合					
担当部課【連絡先】	土木建築部港湾課		【098-866-2395】			
		船客待合所・上屋の延命化、耐震化及び建替等の実施				
		ガントリークレーン延命化等の実施				

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位：千円)

予算事業名		那覇港産業推進・防災事業					R4年度		令和3年度活動内容と令和4年度活動計画	
主な財源	実施方法	H29年度決算額	H30年度決算額	R元年度決算額	R2年度決算額	R3年度決算見込額	当初予算額	主な財源	令和3年度： 那覇ふ頭上屋建替工事を実施した。	
県単等	その他	408,923	230,363	135,709	174,305	404,311	298,893	県単等	○R4年度： 引き続き、那覇ふ頭上屋建替工事を推進するとともに、新たに、新港ふ頭地区における上屋建替工事に取り組む。	

様式1(主な取組)

活動指標名	船客待合所や上屋の耐震化、延命化等の実施				R3年度			R3年度決算見込額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合A/B			
	船客待合所の耐震改修工事等の実施	船客待合所、上屋の改修工事等の実施	上屋建替設計の実施	上屋建替工事の実施	上屋建替工事の実施	上屋建替工事の実施	88.9%	404,311	順調	進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果 那覇ふ頭地区において、上屋の建替工事を行ったことにより、施設の耐震化が推進された。
活動指標名	ガントリークレーン延命化対策事業の実施				R3年度					
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合A/B			
	延命化対策工事の実施			延命化対策工事の完了	-	-	100.0%			
活動指標名					R3年度					
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合A/B			
(2) これまでの改善案の反映状況										
令和3年度の取組改善案						反映状況				
・老朽化した那覇ふ頭の上屋建替事業については、令和3年度の事業完了を目指す。						・那覇ふ頭上屋建替事業については、令和4年度上半期中の完了予定である。 ・上屋の老朽化対策の推進のため、新たに新港ふ頭地区の上屋建替事業に着手した。				

様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・上屋整備については、供用中のふ頭内で実施することから、荷役関係者等と工事のスケジュールや手順について連携を図る必要がある。

○外部環境の変化

・荷役関係者より、上屋の建物老朽化による雨漏りや壁の剥落等で荷役作業に支障が出ているとの意見がある。

・上屋の破損や動作不良等の老朽化に関する緊急修繕が増えている。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・施設の巡回パトロールを強化し、使用者等と連携して、不具合箇所の早期発見、早期解消に努める。

4 取組の改善案 (Action)

・那覇ふ頭の上屋建替え事業については、令和4年度上半期の事業完了を目指す。